

エリクソンの心理社会的発達段階説

自我と社会との関連に着目

- 社会文化的状況でいかに生活するかという社会的発達課題を重視
- 人生周期 (life cycle) を8段階に分ける

こどもの発達段階

- | | |
|------------------------|------------------|
| I 乳児期(信頼 対 不信) | 出生時から約1年目。 |
| II 幼児前期(自律性 対 恥と疑惑) | 生後約2年目。 |
| III 幼児後期(積極性 対 罪悪感) | 幼年期後半。
小学校低学年 |
| IV 学童期(勤勉性 対 劣等感) | 小学校高学年。 |
| V 思春期と青年期(同一性 対 同一性拡散) | 思春期、青春期。 |

エリクソンの心理社会的発達段階説

1. 乳児期(信頼 対 不信) 新生児～1歳
身体的安定と精神的安定を感じる
→ 自分について**信頼**できる
信頼できてはじめて次の経験が可能になる
不信: 身体的精神的不満足→恐れ
人間関係的な欲求の否認 自閉的生活
母親との基本的信頼感が持てれば希望を持つことができる
2. 幼児前期(自律性 対 恥と疑惑) 幼稚園・小学校低学年
自己の自律性と独立性を希望する
幼く、身体的・社会的・心理的に依存することで、自己の能力に**疑惑**を持つ
甘えてわがままなふるまいに**恥**を感じる

乳・幼児期とストレス

- 養育者のストレスが乳幼児の不機嫌や体調に関係する。
 - 乳幼児は自己中心的で、時間の感覚がないので繰り返しの報道で震災を何度も体験。
 - 幼児は、「僕が●●(例: 悪い子)だったから、地震が起きた」と、思い込みをする可能性がある
- 一思い出させたくないと思ひ、見守るだけでは、**幼児の中で恐ろしい不安となる。**
- 恐怖・心配を受け止めて、分かりやすく説明することにより**安心感が得る。**

- ↓
- 遊びの重要性 「ごっこ遊び」
→ 気持ちの表出... 禁じるのではなく遊びの方向性を変える
ナラティブ・セラピーで安定化を図る
 - スキンシップを心がける
 - ストレスマネジメントの技術を教える(呼吸法・動作法など)
... 自分で対処できる方法を教える

エリクソンの心理社会的発達段階説

4. 学童期(勤勉性 対 劣等感) 小学校高学年
勤勉性を獲得し劣等感を克服する
抽象的概念も発達し、死の意味も分かる
- 個人差が激しい
 - 感情表現が乏しく、身体化しやすい
 - 退行現象・イライラ いじめ・いじける
 - わがまま・身勝手
 - 心配かけないようにわざと明るくふるまったり、大人びる
- ↓
- 安心感を獲得できる環境を作ることが大切
 - 身体を使った感情の発散
 - 「トラウマについて」「心と体は繋がっている」などの心理教育
 - 感情のコントロールの仕方を教える

エリクソンの心理社会的発達段階説

5. 思春期と青年期(同一性 対 同一性拡散)
自我同一性: 身体・精神的自我境界がはっきりしている状態
→ 「忠誠」→ 自ら信じるものに対して捧げることができる
- 同一性の危機: 社会から期待される役割を受け入れられない
→ 社会からの承認を失う→ 社会的価値に反逆
→ 恨み・憎しみ・悪と同一化→ 否定的同一性の選択(非行)

- ↓
- 安心できる面を強調する
- 自分一人ではない・助けてくれる人がいる
 - 国がお金を出して 復興できるという希望を持たせる。
- 再建・復興・回復に向けた行動をとる
- 身体を使う作業
 - 仲間作り

PTSDのリスクの高い条件

- 阪神淡路大震災以降研究が進んでいる
- 被害の大きさと正の相関
近親者の死・友人の死・家屋流出の有無など
 - 感情的に未熟な子
震災前から情緒的に不安定な子
 - 知的に低い境界レベル(IQ70)の子
 - 災害前からメンタルヘルス状態が悪かった子
うつ・双極性・統合失調症・高機能自閉症など
 - 過去にトラウマを持っていた子
虐待・いじめを含む